研究機関名：東北大学

受付番号： 2014-1-43
研究課題名 胃酸分泌状態と内視鏡所見の関連性の検討
研究期間　西暦 2014 年　5 月（倫理委員会承認後）～　2016 年　4 月
対象材料 □病理材料（対象臓器名　　） □生検材料（対象臓器名　　） □血液材料　□遊離細胞　☑その他（内視鏡写真、Endoscopic Gastrin Test (EGT)・血清 *Helicobacter pylori (H. pylori)*抗体データ） 上記材料の採取期間　西暦 1999 年　2 月～2011 年　8 月
意義、目的 これまでの当科での研究より胃酸分泌定量測定法として EGT が開発され、その結果から *H. pylori* 陰性健常日本人の胃酸分泌は EGT にて 3.6±1.5 mEq/10min であることが明らかとなった。また、EGT における高酸分泌の cut off 値を mean+1 S.D.=5.1 mEq/10min、低酸分泌の cut off 値を mean-1 S.D.=2.1 mEq/10min として様々な検討を行い、高酸状態が薬剤性胃粘膜障害の指標となることを報告してきた。しかし、EGT では、投与薬剤のガストリンが保険適応となっていないこと、内視鏡挿入時間の延長が必要なこと（内視鏡挿入時に胃酸を吸引し、その後約 10 分間待機した後に分泌胃液を再度吸引する）から、一般的には用いられていないのが現状である。これまでに、胃酸分泌状態と内視鏡所見の関連性については明らかになっていないが、高酸、低酸を示唆する内視鏡所見が発見されれば、内視鏡像から酸関連疾患に対するリスクの推定が可能となるなど、その意義は大きい。そこで、それぞれの酸分泌状態による内視鏡所見の違いを明らかにすることを目的とする。
方法 東北大学病院消化器内科にて EGT を行い内視鏡画像データが保存されている症例の内視鏡写真を改めて見直し、ヘマチン付着、前庭部びらん、胃体部小溝、線状発赤、点状発赤、胃底腺ポリープ、萎縮(open type)の 7 つの内視鏡所見の有無を記録する。EGT 値より対象症例を高酸群、正常群、低酸群の 3 群に分類し、上記内視鏡所見について比較検討する。尚、これまでの報告から、高酸群：EGT 値≧5.1 mEq/10min、正常群：2.1 mEq/10min＜EGT 値＜5.1 mEq/10min、低酸群：EGT 値≦2.1 mEq/10min と設定する。また、データベースに保存されているそれぞれの症例の血清 *H. pylori* 抗体の結果より、*H. pylori* 陽性症例、*H. pylori* 陰性症例に分け、それぞれの酸分泌状態の内視鏡所見を比較検討する。 尚、使用するデータは匿名化して研究する。
問い合わせ・苦情等の窓口 東北大学病院消化器内科　　八田　和久 住所：仙台市青葉区星陵町 1-1 TEL：022-717-7171